



健づ推第276号

教体第306号

令和2年(2020年)6月10日

各市町村歯科保健担当課長 様

各市町村教育委員会学校保健主管課長 様

熊本県健康福祉部健康局健康づくり推進課長

熊本県教育庁県立学校教育局体育保健課長

新型コロナウイルス感染予防を踏まえての施設におけるフッ化物洗口の
実施について(依頼)

日頃から、子どもたちの歯及び口腔の健康づくりに御理解と御協力をいただき、感謝申し上げます。

今回、新型コロナウイルス感染予防の休校(園)による生活習慣の変化によってむし歯を含む歯科疾患に罹患するリスクが高まっていることが懸念されます。

つきましては、令和2年(2020年)4月30日付け健づ推第25号及び教体第179号「各学校におけるフッ化物洗口について(依頼)」において、フッ化物洗口実施時の留意点について通知したところですが、施設・学校等の再開後は、地域の状況に応じて、準備ができ次第、別添の「新型コロナウイルス感染予防を踏まえたフッ化物洗口実施手順」を参考に、実施していただきますようお願いいたします。

また、実施に当たっては、令和元年(2019年)12月9日付け健づ推第1064号及び教体第970号「学校におけるフッ化物洗口の実施について(依頼)」で依頼しておりますとおり、引き続き、フッ化物洗口の関係者間の連携を十分図っていただきますようお願いいたします。

【問合せ先】

熊本県健康福祉部健康局
健康づくり推進課 担当 緒方

Tel 096-333-2208

E-mail ogata-e-dz@pref.kumamoto.lg.jp

熊本県教育庁県立学校教育局

体育保健課健康教育班 担当 種子永

Tel 096-333-2712(直通)

E-mail tanenaga-k@pref.kumamoto.lg.jp

※ 各部屋に貼って、確認しながら行ってください。

新型コロナウイルス感染予防を踏まえてのフッ化物洗口実施手順

1. 洗口剤の使用量と残量をフッ化物洗口薬剤出納簿につけ、残りの洗口剤は施錠された場所に保管する。



2. 洗口液の作成や分注は発熱等の風邪症状がない者が行い、石けんでの十分な手洗い後に実施する。

※ 洗口液の作成や分注はなるべく少ない人数で行う。ただし、確認は2人体制で行う。

※ 教室で行う際は十分換気を行う。



3. ポリタンク（またはディスペンサー付きボトル）にフッ化物洗口剤（ミラノール、オラブリス（ ）gを（ ）包入れ、少量の水を入れ、よく振って溶かす。

4. ポリタンク（またはディスペンサー付きボトル）に、残りの水（ ）mLを入れる。

※ ポリタンクで作成した場合は、作成後ディスペンサー付ボトルに分ける。



5. ボトルのディスペンサーを $\left\{ \begin{array}{l} () 1回 \\ () 2回 \end{array} \right\}$ 押し、一人当たり10mLを、紙コップに分注する。

※ ボトルの種類により、一押しの量が異なるので、確認すること

※ 感染予防の観点から、使用するコップは、できれば、個人用コップより紙コップの方が望ましい。



6. 全員にコップがわたったら、一斉に洗口液を口に含み、すべての歯にゆきわたるように、ブクブクうがいを（ ）間続ける。



7. 1分間が過ぎたら洗口をやめ、各人のコップに口を近づけ、洗口液が飛び散らないように、極力下方に静かに吐き出す。（場合によっては、ティッシュを先にコップに入れてから吐き出すなどの工夫をする）

※ 洗口後30分はうがいをしたり、飲食物をとらないように気をつける。

8. 洗口後のコップを回収する。

※ 回収する人は、手袋を着用するか、回収後に十分に手洗いをする。

※ 回収の際に、子どもが、他人の使用した容器に触れないようにすることや洗い場に子どもが密集しないようにするなど、実施方法を工夫する。



※ 各部屋に貼って、確認しながら行ってください。

新型コロナウイルス感染予防を踏まえてのフッ化物洗口実施手順

1. 洗口剤の使用量と残量をフッ化物洗口薬剤出納簿につけ、残りの洗口剤は施錠された場所に保管する。
2. 洗口液の作成や分注は発熱等の風邪症状がない者が行い、石けんでの十分な手洗い後に実施する。
 ※ 洗口液の作成や分注はなるべく少ない人数で行う。ただし、確認は2人体制で行う。
 ※ 教室で行う際は十分換気を行う。
3. ポリタンク（またはディスペンサー付きボトル）にフッ化物洗口剤（ミラノール、オラブリス（ ）gを（ ）包入れ、少量の水を入れ、よく振って溶かす。
4. ポリタンク（またはディスペンサー付きボトル）に、残りの水（ ）mLを入れる。
 ※ ポリタンクで作成した場合は、作成後ディスペンサー付ボトルに分ける。
5. ボトルのディスペンサーを $\left\{ \begin{array}{l} () \text{ 1回} \\ () \text{ 2回} \end{array} \right\}$ 押し、一人当たり7mLを、各人のコップに分注する。
 ※ ボトルの種類により、一押しの量が異なるので、確認すること
6. 全員にコップがわたったら、一斉に洗口液を口に含み、すべての歯にゆきわたるように、ブクブクうがいを（ ）間続ける。
7. 1分間が過ぎたら洗口をやめ、各人のコップに口を近づけ、洗口液が飛び散らないように、極力下方に静かに吐き出す。（場合によっては、ティッシュを先にコップに入れてから吐き出すなどの工夫をする）
 ※ 洗口後30分はうがいをしたり、飲食物をとらないように気をつける。
8. 洗口後のコップを回収する。
 ※ 回収する人は、手袋を着用して実施するか、回収後に十分手洗いをする。
 ※ 回収の際に他人が使用した容器に触れないようにすることや洗い場に子どもが密集しないようにするなど、実施方法を工夫する。
9. コップを洗い、水切りかごに入れ乾燥する。
 （吐き出した洗口液は洗い場に流す。）
 ※ 個人用コップ（記名入りのポリコップを含む）を同じ水切りかごで保管する場合は、毎回消毒を行う。

